

萩市堀内地区・平安古地区(山口県)

(1)保存地区の概要

地区名 萩市堀内地区

種別 武家町

面積 約55.0ha

選定年月日 昭和51年9月4日

特徴 堀内は旧萩城三の丸にあたり、毛利輝元が慶長13年(1608)に指月山に城を築き、町割をおこなったことに始まる。保存地区は堀内のほぼ全域で、藩の諸役所(御蔵元・御木屋・諸郡御用屋敷・御膳夫所・御徒士所)と、毛利一門をはじめとする大身の武家屋敷が建ち並んでいた。近世城下町の武家屋敷としての地割が今もよく残り、土塀越しに見える夏みかんとともに歴史的風致を形成している。現在も、地区内には永代家老の益田家の物見矢倉など10数棟の武家屋敷が残る。



旧益田家物見矢倉

地区名 萩市平安古地区

種別 武家町

面積 約4.0ha

選定年月日 昭和51年9月4日

特徴 平安古は、旧萩城三の丸を囲む外堀の南に位置する。武士のうち重臣の多くは三の丸である堀内に居住したが、平安古では開墾が進むのに並行して数多くの武士が屋敷地を構えた。保存地区は橋本川沿いにあり、江戸時代の地割りをよく残り、当時の屋敷構えをうかがうことができる。現在でもそれら武家屋敷の主屋、長屋門、長屋、土蔵が、鍵曲(かいまがり)を構成する長い土塀とともに残っており、藩政期の姿をよく留めている。



平安古鍵曲

萩市堀内地区・平安古地区(山口県)

(2)保存地区のあゆみ

昭和47年 萩市歴史的景観保存条例を制定

→市内7地区を歴史的景観保存地区に指定

昭和51年 萩市伝統的建造物群保存地区保存条例を制定

→堀内地区・平安古地区(武家地)が国重伝建地区に選定

昭和60年 堀内地区・平安古地区保存対策調査

平成14年 堀内地区・平安古地区見直し調査(～平成15年)

平成16年 萩まちじゅう博物館条例を制定

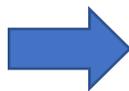
→市と市民の責務を条例で規定

平成21年 萩市歴史的風致維持向上計画を国が認定

平成27年 「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」

→世界文化遺産登録。構成資産「萩城下町(上級武家地)」に堀内伝建地区を含む

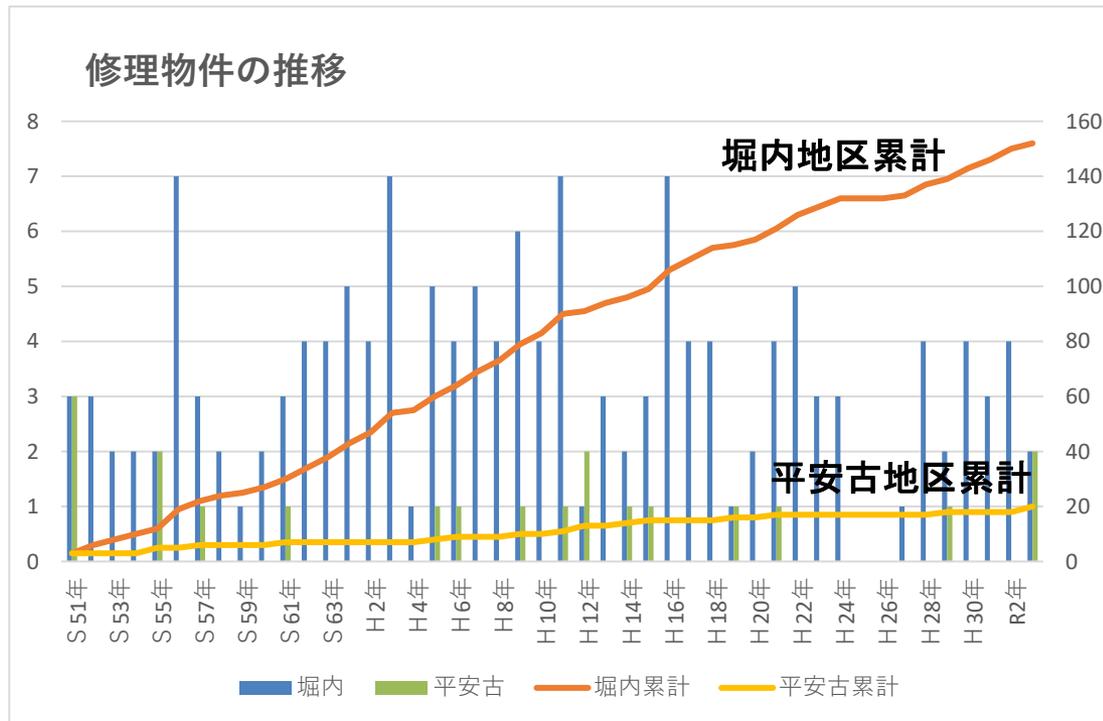
(3) 保存地区の保存と整備



堀内鍵曲環境整備



田中別邸旧宅整備(平安古)



(4) 保存地区の活用とまちづくり



古地図ガイドツアー(堀内)



住民による清掃活動(堀内)



萩・夏みかんまつり(平安古)



町内会の主催イベント
城下町萩・堀内散策